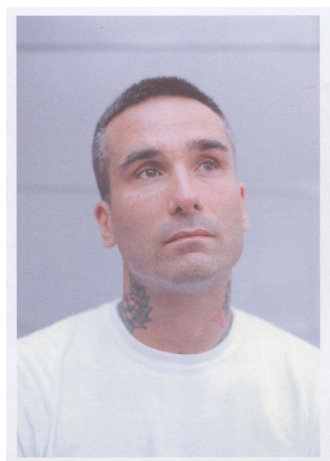


# Artists



## ステファン・ブルッゲマン Stefan Brüggemann

1975年 メキシコシティ出身。ロンドン、メキシコシティを拠点に活動。テキストやアプロプリエーション(流用)を通して、現代社会における様々な事象に生じる矛盾を作品として成立させる。ブルッゲマンの作品は、主にポスト構造主義や脱構築、ニヒリズムの思想をベースにした理論とポップなイメージの融合である。言葉とテキストの関係、タイポグラフィとハンドライティング、媒体としての素材など、ミニマルな表層の背後に計算された矛盾やアイロニーを組み込むことは、ブルッゲマンの確固たる制作手法である。その表現はしばしば同語反復(トートロジー)されたテキストや記号的イメージを用いて行われ、テキストとイメージそれ自体の意味や答えだけではなく、それらが想起され挿入される文脈との関係において、見る者に問いや疑いを抱かせる。鏡やベニヤ板など様々な素材がブルッゲマンの表現媒体となり、作品はペインティングのみならず、ネオンや写真、巨大なインスタレーションなどに及ぶ。



## ガーダー・アイダ・アイナーソン Gardar Eide Einarsson

1976年 ノルウェー、オスロ出身。東京を拠点に活動。国立芸術アカデミー・ベルゲン校(ノルウェー)、ブラウンシュヴァイク芸術大学(フランクフルト、ドイツ)、ニューヨーク・ホイットニー美術館(ニューヨーク)のインディペンデント・スタディ・プログラムを経て美術を学ぶ。

作品は数々のコレクションに所蔵されており、ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、フランクフルト現代美術館、ストックホルム近代美術館、オスロ国立美術館などに所蔵されている。



## 平子 雄一 Yuichi Hirako

1982年 岡山県出身、東京都在住。2006年にイギリスのWimbledon College of Art, Fine Art, Painting学科を卒業。植物や自然と人間の共存について、また、その関係性の中に浮上する曖昧さや疑問をテーマに制作を行う。観葉植物や街路樹、公園に植えられた植物など、人によってコントロールされた植物を「自然」と定義することへの違和感をきっかけに、現代社会における自然と人間との境界線を、作品制作を通して追求している。ペインティングを中心に、ドローイングや彫刻、インスタレーション、サウンドパフォーマンスなど、表現手法は多岐にわたる。デンマーク、オランダ、シンガポール、台湾、韓国など、国外でも精力的に作品を発表している。

# Artists



小林 万里子 Mariko Kobayashi

1987年 大阪府出身、埼玉県在住。多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻、2012年同大学院修了。織る、染める、編む、刺す、といったテキスタイル技法を用い多様な素材を組み合わせていく方法で、世界に存在する様々な結びつきを表現する。人と動物を分ける境界線としての肉体が土へと還る長い時間や、死してから他の生き物として命が再生する道のりを描くといったように、我々が「人」として生きる「今」という時間を繕きながら制作を行う。重層的に織りなされる色や形によって現れる混沌のイメージの中から、生命の本質的な姿を描き出すことを試みている。



トニー・マテリ Tony Matelli

1971年 シカゴ出身。マテリは自在に物質を操り、驚くべきテクスチャーや色彩を持った超絶技巧的な作品を生み出す。とりわけ彫刻作品は驚異的なリアルさで鑑賞者に衝撃を与えるが、そこにあるのは表面的な面白さだけではない。自身が「コンテンポラリー・ヴァニタス」と呼ぶ作品群は、朽ちかけた彫像とみずみずしい果実という相入れないはずのものを半永久的に組み合わせることによって、物理的法則だけでなく時間の概念や物質に対する先入観をも覆す。



松山 智一 Tomokazu Matsuyama

1976年 岐阜県出身。上智大学卒業後 2002年渡米。NY Pratt Instituteを首席で卒業。ペインティングを中心に彫刻やインスタレーションも手がける。作品には、東洋と西洋、古代と現代、具象と抽象といった両極の要素が見られ、これは日本とアメリカの両国で育った松山自身の経験や情報化の中で移ろいゆく現代社会が反映されている。これまでにニューヨーク、ワシントン D.C.、サンフランシスコ、ロサンゼルス等の全米主要都市、日本、ドバイ、上海、香港、台北、ルクセンブルグなど、世界各地のギャラリー、美術館、大学施設等にて展覧会を多数開催。また、ロサンゼルス・カウンティ美術館、サンフランシスコアジア美術館、龍美術館、Microsoft コレクション、ドバイ首長国の王室コレクション等に作品が収蔵されている。2012年から2017年5月までの5年間、School of Visual Arts (SVA) の非常勤教授を勤めた。2020年、新宿駅東口広場のアートのスペースを監修、中心に7mの巨大彫刻を制作する。2021年にはNHK「日曜美術館」で特集が組まれ、グローバルな活動と重層的な制作が高く評価される。現在はブルックリン・グリーンポイントにスタジオを構える。